

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和3年4月30日

【発行者名】 UBSファンド・マネジメント（ルクセンブルグ）エス・エイ
（UBS Fund Management（Luxembourg）S.A.）

【代表者の役職氏名】 メンバー・オブ・ザ・エグゼクティブ・ボード
ヴァレリー・ベルナル
（Valérie Bernard）
メンバー・オブ・ザ・エグゼクティブ・ボード
ジェフリー・ラヘイ
（Geoffrey Lahaye）

【本店の所在の場所】 ルクセンブルグ大公国、ルクセンブルグL - 1855、
J.F.ケネディ通り33A番
（33A avenue J.F. Kennedy, L-1855 Luxembourg,
Grand Duchy of Luxembourg）

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 三浦 健
弁護士 大西 信治

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所

【事務連絡者氏名】 弁護士 三浦 健
弁護士 大西 信治

【連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所

【電話番号】 03（6212）8316

【届出の対象とした募集（売出）外国投資信託受益証券に係るファンドの名称】
UBS（Lux）エクイティ・ファンド
（UBS（Lux）Equity Fund）

【届出の対象とした募集（売出）外国投資信託受益証券の金額】
UBS（Lux）エクイティ・ファンド
エマージング・マーケット・ 5億アメリカ合衆国ドル
サステナブル・リーダーズ
（約547億円）
（米ドル）クラスP受益証券
ヨーロッパ・オポチュニティ・ 8億ユーロ
サステナブル（ユーロ）
（約963億円）
クラスP受益証券
グレーター・チャイナ（米ドル） 9億アメリカ合衆国ドル
クラスP受益証券
（約985億円）
スモール・キャップスUSA 9億アメリカ合衆国ドル
（米ドル）クラスP受益証券
（約985億円）
USサステナブル 9億アメリカ合衆国ドル
（米ドル）クラスP受益証券
（約985億円）

【縦覧に供する場所】 該当事項なし

- (注1) UBS (Lux) エクイティ・ファンド - エマージング・マーケッツ (米ドル) は2014年8月4日付で、UBS (Lux) エクイティ・ファンド - エマージング・マーケッツ・インフラストラクチャー (米ドル) は2014年8月29日付で、それぞれUBS (Lux) エクイティ・シキャブ - エマージング・マーケッツ・ハイ・ディビデンド (米ドル) に吸収され解散した。
- UBS (Lux) エクイティ・ファンド - ユーロ・ストックス50アドバンسد (ユーロ) は、2014年9月19日付でUBS (Lux) エクイティ・ファンド - ユーロ・カンTRIES・オポチュニティ (ユーロ) に吸収され解散した。
- UBS (Lux) エクイティ・ファンド - スモール・アンド・ミッド・キャップス・ジャパン (日本円) は、2015年9月22日付でUBS (Lux) エクイティ・ファンド - ジャパン (日本円) に吸収され解散した。
- UBS (Lux) エクイティ・ファンド - 台湾 (米ドル) は、2015年10月29日付でUBS (Lux) エクイティ・シキャブ - アジアン・スモラー・カンパニーズ (米ドル) に吸収され解散した。
- UBS (Lux) エクイティ・ファンド - フィナンシャル (ユーロ) は、2015年11月12日付でUBS (Lux) キー・セレクション・シキャブ - グローバル・エクイティーズ (米ドル) に吸収され解散した。
- UBS (Lux) エクイティ・ファンド - セントラル・ヨーロッパ (ユーロ) は、2016年12月6日付でUBS (Lux) エクイティ・シキャブ - ユーロ・カンTRIES・インカム (ユーロ) に吸収され解散した。
- UBS (Lux) エクイティ・ファンド - オーストラリア (豪ドル) は、2019年4月8日付で解散した。
- (注2) 2021年2月1日付で、UBS (Lux) エクイティ・ファンド - アジア・コンサンプション (米ドル) はUBS (Lux) エクイティ・ファンド - エマージング・マーケッツ・サステナブル・リーダーズ (米ドル) に、UBS (Lux) エクイティ・ファンド - ユーロピアン・オポチュニティ (ユーロ) はUBS (Lux) エクイティ・ファンド - ユーロピアン・オポチュニティ・サステナブル (ユーロ) にそれぞれ名称を変更した。
- (注3) ユーロおよびアメリカ合衆国ドル(以下「米ドル」という。)の円貨換算は、特に記載がない限り、2020年2月28日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値(1ユーロ=120.32円、1米ドル=109.43円)による。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

2020年5月29日に提出した有価証券届出書(2020年7月30日付、2020年8月31日付および2021年2月1日付有価証券届出書の訂正届出書により訂正済)(以下「原届出書」といいます。)について、2021年3月10日付でファンドの設立地における目論見書が変更され、投資方針、投資リスクおよび運用体制等が変更されましたので、また、2021年5月2日付で払込取扱場所が変更されますので、これに関する記載を訂正するため、本訂正届出書を提出するものです。

なお、下線の部分は訂正部分を示します。

2【訂正の内容】

第一部 証券情報

(10) 払込取扱場所

<訂正前>

UBS証券株式会社 東京都千代田区大手町一丁目5番1号
大手町ファーストスクエア イーストタワー

<訂正後>

UBS証券株式会社 東京都千代田区大手町一丁目5番1号
大手町ファーストスクエア イーストタワー(注)

(注)2021年5月2日に、東京都千代田区大手町一丁目2番1号 Otemachi Oneタワーに変更する予定である。

第二部 ファンド情報

第1 ファンドの状況

2 投資方針

(1) 投資方針

<訂正前>

(前略)

ESGインテグレーション

UBSアセット・マネジメントは、特定のサブ・ファンドをESG統合型ファンドに分類する。かかるサブ・ファンドの投資プロセスは、サステナビリティならびに/または環境、社会およびガバナンス(以下「ESG」という。)の基準に関する主要な見地を、財務分析のプロセスに統合する。ESG統合型ファンドは、投資プロセスに、特定の倫理上の原則または基準の適用ではなく、投資結果に影響を及ぼす可能性がある主なESG上のリスクが含まれることを特徴とする。主なサステナビリティ/ESG上の特徴の分析には、会社の様々な側面(そのカーボン・フットプリント、従業員の健康および福祉、バリュー・チェーンの管理、顧客の公平な取扱いならびにガバナンスに係る手続き等)が含まれる可能性がある。投資運用会社が、値上がりの可能性が特定されるリスクを上回ると考える場合、ESG上の高いリスク・プロファイルを有する有価証券への投資は継続される可能性がある。そのため、ESG統合型ファンドはサステナブル・フォーカス/ESGファンドではなく、投資プロセスにおいてESG問題を追加要因とする、財務収益の最大化を目指す投資ファンドである。

各サブ・ファンド特定の投資方針

UBS(Lux)エクイティ・ファンド-エマージング・マーケット・サステナブル・リーダーズ(米ドル)

アクティブに運用されるUBS（Lux）エクイティ・ファンド - エマージング・マーケット・サステナブル・リーダーズ（米ドル）は、リスク分散原則に従って、その資産の少なくとも3分の2を新興国市場に所在するか、または同市場で主に活動を行う企業の株式またはその他持分に投資する。

本サブ・ファンドは、消費、都市化、デジタル化、金融包摂、ヘルスケア、新技術等の長期的なトレンドおよびテーマから利益を享受することができるセクターの主要企業の株式に投資する。

本サブ・ファンドの資産は、特定の時価総額の規模に限定されるものではなく、いかなる地域配分またはセクター配分に限定されるものでもない。

サブ・ファンドは、パフォーマンス測定、リスク管理およびポートフォリオ構築の目的において、ベンチマークであるMSCI エマージング・マーケット（正味配当金再投資）を用いる。ポートフォリオ・マネジャーは、ポートフォリオを構築する際に、自らの裁量権を行使することができ、銘柄または組入比率の点においてベンチマークに縛られない。名称に「ヘッジ」を含む受益証券クラスに関しては、ベンチマークの為替ヘッジバージョン（利用可能な場合）が用いられる。ポートフォリオは、投資配分およびパフォーマンスの点においてベンチマークから乖離することがある。

本サブ・ファンドは、地域的な投資特性のために様々な外国通貨に投資を行うが、関連する為替リスクを低減するために、ポートフォリオのすべてまたはその一部を本サブ・ファンドの基準通貨に対してヘッジする場合がある。

投資家は、本サブ・ファンドの投資リスクには上海 - 香港ストック・コネクトまたは深圳 - 香港ストック・コネクトを通じて取引される中国A株も含む可能性があることに留意するべきである。中国A株は、中国本土にある企業の人民元建てA株式である。当該株式は、上海証券取引所および深圳証券取引所等の中国証券取引所において取引される。

UBSアセット・マネジメントは、本サブ・ファンドをS I（サステナブル投資）フォーカス・ファンドに分類している。本サブ・ファンドのサステナビリティ・プロフィールは、個々の投資対象すべての合計に基づいている。たとえば、本サブ・ファンドは、責任ある統治（企業の社会的責任 / CSR）等の問題に基づく原則を有する企業に投資することができる。ただし、本サブ・ファンドは、持続可能な開発目標の定義に基づき、社会に対してサステナビリティに関するプラスの影響を与えるセクターで活動する企業にも投資することができる。他方、本サブ・ファンドは、社会または環境にマイナスの影響を与える企業またはかかる影響を与える事業活動を行うセクター全体を除外することもできる。この投資プロセスの目的は、適切な環境プロフィールを有し、他の企業と比べて平均を上回る社会問題および環境問題へのコミットメントを行い、かつ、より進歩的な企業統治アプローチを行う企業を選定することである。サステナビリティ / ESG基準のファンダメンタル分析には、二酸化炭素排出量、従業員の健康や福祉、バリュー・チェーンの管理、顧客の公平な取扱いおよび統治手続き等、企業の様々な側面が含まれる可能性がある。本サブ・ファンドは、タバコの生産、風俗、石炭または石炭火力発電所由来のエネルギーにより主な収益を得る企業への直接的な投資を行わない。

本サブ・ファンドは、先進国市場および新興国市場の双方に投資する可能性がある。かかる投資に伴うリスクについては、「リスクの注記」に記載する。上記に加え、投資家は、上海 - 香港ストック・コネクトまたは深圳 - 香港ストック・コネクトを通じて取引される投資に伴う上記のリスクを読み、認識し、かつ、これを考慮するべきである。かかるリスクに関する情報は、下記「リスクの注記」に記載される。こうした理由により、本サブ・ファンドは上記のリスクを認識している投資家に特に適している。

基準通貨は、米ドルである。

典型的な投資家の特性

アクティブ運用されるサブ・ファンドは、新興国市場にあるまたは同地域で主に活動を行い、かつ、持続可能性においてトップの地位を目指す企業に分散された株式ポートフォリオに投資することを望む投資家に適している。投資家は、株式に固有のリスクを負う覚悟を持つべきである。

UBS（Lux）エクイティ・ファンド - ヨーロピアン・オポチュニティ・サステナブル（ユーロ）

アクティブに運用されるUBS（Lux）エクイティ・ファンド - ヨーロピアン・オポチュニティ・サステナブル（ユーロ）は、その資産の大部分をヨーロッパにあるまたは同地域で主に活動を行う企業の株式およびその他の持分に投資する。当該投資の範囲で、本サブ・ファンドは（その純資産の10%を上限にオープン・エンド型投資信託である）ヨーロッパ・スモールおよび/またはミッド・キャップスに直接的もしくは間接的に投資を行うこともできる。投資制限の「5 証券および短期金融商品を裏付け資産とする特別の技法および手段」に従い、サブ・ファンドはインデックス先物を利用して市場へのエクスポージャーを増減させることができる。サブ・ファンドは、パフォーマンス測定、リスク管理およびポートフォリオ構築の目的において、ベンチマークであるMSCIヨーロッパ（正味配当金再投資）を用いる。ポートフォリオ・マネジャーは、ポートフォリオを構築する際に、自らの裁量権を行使ことができ、銘柄または組入比率の点においてベンチマークに縛られない。名称に「ヘッジ」を含む受益証券クラスに関しては、ベンチマークの為替ヘッジバージョン（利用可能な場合）が用いられる。ポートフォリオは、投資配分およびパフォーマンスの点においてベンチマークから乖離することがある。

UBSアセット・マネジメントは、本サブ・ファンドをSI（サステナブル投資）フォーカス・ファンドに分類している。本サブ・ファンドのサステナビリティ・プロフィールは、個々の投資対象すべての合計に基づいている。たとえば、本サブ・ファンドは、責任ある統治（企業の社会的責任/CSR）等の問題に基づく原則を有する企業に投資することができる。ただし、本サブ・ファンドは、持続可能な開発目標の定義に基づき、社会に対してサステナビリティに関するプラスの影響を与えるセクターで活動する企業にも投資することができる。他方、本サブ・ファンドは、社会または環境にマイナスの影響を与える企業またはかかる影響を与える事業活動を行うセクター全体を除外することもできる。この投資プロセスの目的は、適切な環境プロフィールを有し、他の企業と比べて平均を上回る社会問題および環境問題へのコミットメントを行い、かつ、より進歩的な企業統治アプローチを行う企業を選定することである。サステナビリティ/ESG基準のファンダメンタル分析には、二酸化炭素排出量、従業員の健康や福祉、バリュー・チェーンの管理、顧客の公平な取扱いおよび統治手続き等、企業の様々な側面が含まれる可能性がある。本サブ・ファンドは、タバコの生産、風俗、石炭または石炭火力発電所由来のエネルギーにより主な収益を得る企業への直接的な投資を行わない。

基準通貨は、ユーロである。

典型的な投資家の特性

サブ・ファンドは、受入可能な環境プロフィール、社会的プロフィールおよび経済的プロフィールを有するヨーロッパの企業のアクティブに運用される株式ポートフォリオに投資することを望む投資家に適している。投資家は、株式に固有のリスクを負う覚悟を持つべきである。

UBS（Lux）エクイティ・ファンド - グレーター・チャイナ（米ドル）

UBSアセット・マネジメントは、本サブ・ファンドを、ESG統合型ファンドとして分類している。

（中略）

UBS（Lux）エクイティ・ファンド - スモール・キャップスUSA（米ドル）

UBSアセット・マネジメントは、本サブ・ファンドを、ESG統合型ファンドとして分類している。

（中略）

UBS（Lux）エクイティ・ファンド - USサステナブル（米ドル）

UBS（Lux）エクイティ・ファンド - USサステナブル（米ドル）は、その資産の3分の2を、米国内に所在するかまたは主として米国で事業を展開するあらゆる規模の会社の株式および持分権に投資する。

本サブ・ファンドは、様々な財務要因、ならびに環境、社会およびガバナンス(ESG)基準の観点での企業業績等、ファンダメンタルな持続可能性要因に基づいて、企業へ投資を行う。ESG基準は、企業の主要分野に影響を与え、二酸化炭素排出量や経営効率、労働基準やサプライチェーンの管理、ボード・ダイバーシティや贈収賄および汚職防止のガイドラインというテーマを含む。平均を上回る持続可能性の特徴を有し、持続可能性の基準から特に具体的なビジネスモデルを持つ企業を主に選択するため、独自の分析手法が用いられる。サブ・ファンドは、ESG基準を投資プロセスに有す。サブ・ファンドは、ポジティブ・スクリーニングと最小限の除外基準を用いる。そのため、サブ・ファンドは、アルコール、タバコあるいは軍事兵器の生産や販売、または賭博の運営により主な収益を得る企業の株式に投資しない。サブ・ファンドは特にエネルギー効率、環境、健康および人口動態または社会の改善に関わる企業に投資する。サブ・ファンドは、パフォーマンス測定、リスク管理およびポートフォリオ構築の目的において、ベンチマークであるS&P 500(正味配当金再投資)を用いる。ポートフォリオ・マネジャーは、ポートフォリオを構築する際に、自らの裁量権を行使することができ、銘柄または組入比率の点においてベンチマークに縛られない。名称に「ヘッジ」を含む受益証券クラスに関しては、ベンチマークの為替ヘッジバージョン(利用可能な場合)が用いられる。ポートフォリオは、投資配分およびパフォーマンスの点においてベンチマークから乖離することがある。

基準通貨は、米ドルである。

典型的な投資家の特性

アクティブ運用されるサブ・ファンドは、環境、社会および経済問題に取り組む米国企業に分散された株式ポートフォリオに投資することを希望し、かつ、株式に固有のリスクを負う覚悟がある投資家に適している。

リスクの注記

（中略）

流動性リスク

サブ・ファンドは、流動性の低下により売却することが困難であることが後に判明する証券に投資することがある。これは当該証券の市場価格に、そして結果として当該サブ・ファンドの純資産価額に悪影響を及ぼす可能性がある。当該証券の流動性の低下は、発行体の信用格付の格下げまたは効率的市場の欠如などの異例または異常な経済または市場の事由によって生じることがある。極端な市況においては、自発的な買主がほとんどいないことがあり、希望した時期および価格で投資対象を売却することが容易ではないことがある。また、当該サブ・ファンドは、投資対象を売却するためにより低い価格に同意しなければならないことがあり、または投資対象を売却することがまったくできないことがある。一定の証券またはその他の商品の取引は、関連する取引所または政府機関もしくは監督機関により停止されまたは制限されることがあり、これにより当該サブ・ファンドは損失を被る可能性がある。ポートフォリオのポジションを売却できないことは、当該サブ・ファンドの価値に悪影響を及ぼすかまたは当該サブ・ファンドのその他の投資機会の利用を妨げる可能性がある。買戻請求に応じるため、当該サブ・ファンドは、不利な時期にかつ/または不利な条件で、投資対象の売却を強いられることがある。

債券

（後略）

<訂正後>

（前略）

ESGインテグレーション

UBSアセット・マネジメントは、一定のサブ・ファンドを「ESG統合型ファンド」に分類している。投資運用会社は、投資プロセスにサステナビリティを組み込みつつ投資家の財務上の目標を達成することを目指す。投資運用会社は、サステナビリティを、発行体の長期的なパフォーマンスに寄与する投資機会の創出およびリスクの軽減を図りながら事業慣行の環境面、社会面およびガバナンス面（ESG）の要因を活用する能力（以下「サステナビリティ」という。）と定義している。投資運用会社は、これらの要因を考慮すればより十分な情報を得た上での投資決定が実現されると考えている。ESG統合型ファンドは、投資ユニバースが絞り込まれていることがある、ESG特性を推進している投資信託またはサステナビリティもしくはインパクトにおける具体的な目標を有する投資信託とは異なり、財務パフォーマンスを最大化することを主に目指す投資信託であり、そのためESGの諸側面が投資プロセスにおけるインプット要因となっている。アクティブ運用を行うすべての投資信託に適用される投資ユニバースの制限は、サステナビリティ・エクスクルージョン・ポリシーに取り込まれている。該当する場合、さらなる強制力のある要因がサブ・ファンドの投資方針において概説される。

ESGインテグレーションは、リサーチ・プロセスの一環として重大なESGリスクを検討することにより行われる。企業発行体の場合、このプロセスでは投資決定に影響を及ぼす可能性がある財務上関連する要因をセクター毎に特定するESG重大問題の枠組みを利用する。財務上の重要性に対するかかる姿勢により、企業の財務パフォーマンス、ひいては投資リターンに影響を及ぼす可能性があるサステナビリティ要因をアナリストが重視することが確保される。また、ESGインテグレーションにより、企業のESGリスク・プロフィールを改善し、これにより企業の財務パフォーマンスに対してESG上の問題が及ぼす潜在的な悪影響を軽減するためのエンゲージメントの機会を見出すことができる。投資運用会社は、重大なESGリスクがある企業を識別するために、複数のESGのデータ・ソースを組み合わせた独自のESGリスク・ダッシュボードを用いている。投資運用会社の投資の意思決定プロセスにESGリスクが組み入れられるようにするため、次に取るべき行動の決定に役立つリスク・シグナル

が投資運用会社に対してESGリスクを明確に示す。企業以外の発行体の場合、投資運用会社は、最も重要なESG要因に関するデータを統合した定性的または定量的なESGリスク評価を適用することができる。重大なサステナビリティ/ESGに関する検討事項の分析には、とりわけカーボン・フットプリント、健康および福祉、人権、サプライ・チェーンの管理、顧客の公平な取扱いならびにガバナンス等の様々な側面を含めることができる。

投資運用会社は、根底となる戦略（対象投資信託を含む。）における配分時にESGインテグレーションを考慮に入れる。UBSが運用する根底となる戦略の場合、投資運用会社は、ESGインテグレーションに関する上記リサーチに基づきESG統合資産を特定する。外部により運用される戦略の場合、ESG統合資産は、第三者提供会社によるリサーチの過程で特定される。

サステナビリティ・エクスクルージョン・ポリシー

投資運用会社のサステナビリティ・エクスクルージョン・ポリシーは、すべてのアクティブな投資戦略に適用される除外（エクスクルージョン）事項を概説したものであり、ひいてはアクティブ運用を行う投資信託の投資ユニバースを制限するものである。

<https://www.ubs.com/global/en/asset-management/investment-capabilities/sustainability.html>

サステナビリティに関する年次報告

「UBSのサステナビリティ報告書」はUBSによるサステナビリティ情報開示を行うための手段である。当該報告書は毎年公表され、オープンにかつ透明性をもってUBSのサステナビリティへのアプローチおよびサステナビリティに向けた活動を開示することを目的とし、UBSの情報ポリシーおよび情報開示に関する原則を一貫して適用している。

<https://www.ubs.com/global/en/asset-management/investment-capabilities/sustainability.html>

サステナビリティ・フォーカス/インパクト・ファンド

UBSアセット・マネジメントは、一定のサブ・ファンドをサステナビリティ・フォーカス/インパクト・ファンドに分類している。サステナビリティ・フォーカス/インパクト・ファンドは、ESG特性を促進するか、または投資方針に定められる特定のサステナビリティ目標を有する。

各サブ・ファンド特定の投資方針

UBS（Lux）エクイティ・ファンド - エマージング・マーケット・サステナブル・リーダーズ（米ドル）

UBSアセット・マネジメントは、本サブ・ファンドをサステナビリティ・フォーカス・ファンドに分類している。

アクティブに運用されるUBS（Lux）エクイティ・ファンド - エマージング・マーケット・サステナブル・リーダーズ（米ドル）は、リスク分散原則に従って、その資産の少なくとも3分の2を新興国市場に所在するか、または同市場で主に活動を行う企業の株式またはその他持分に投資する。

本サブ・ファンドは、消費、都市化、デジタル化、金融包摂、ヘルスケア、新技術等の長期的なトレンドおよびテーマから利益を享受することができるセクターの主要企業の株式に投資する。

本サブ・ファンドの資産は、特定の時価総額の規模に限定されるものではなく、いかなる地域配分またはセクター配分に限定されるものでもない。

ポートフォリオ・マネジャーは、強力な環境・社会パフォーマンスの特性または強力なサステナビリティ・プロフィールを有する投資ユニバースについて企業を特定するためにUBS ESGコンセンサススコアを用いる。UBS ESGコンセンサススコアは、内部および認められた外部プロバイダーが

らのESGスコアデータの標準加重平均である。プロバイダー1社からのESGスコアデータに依拠する場合よりも、コンセンサススコアのアプローチは、サステナビリティ・プロファイルの質の妥当性を向上させる。

UBS ESGコンセンサススコアは、環境、社会およびガバナンス(ESG)に関して、関連する企業のパフォーマンス等の持続可能性要因を評価する。かかるESG特性は、企業の主要分野およびESGリスク管理の有効性に関連する。環境および社会要因には、とりわけ、環境フットプリントおよび経営効率、環境リスク管理、気候変動、天然資源の使用、汚染・廃棄物管理、労働基準やサプライチェーンの監理、人的資本、ボード・ダイバーシティ、労働安全衛生、製品安全性、ならびに贈収賄および汚職防止のガイドラインが含まれる可能性がある。

サブ・ファンドの各投資対象は、UBS ESGコンセンサススコア(1~10の基準で、10が最高のサステナビリティ・プロファイル)を有する。サブ・ファンドのサステナビリティ・プロファイルは、加重平均されたUBS ESGコンセンサススコアを用いて測定される。サブ・ファンドは、そのベンチマークのサステナビリティ・プロファイルを上回るか、またはUBS ESGコンセンサススコアの7から10(強力なサステナビリティ・プロファイルを示す。)を有するサステナビリティ・プロファイルを維持する。算定には現金および無格付投資商品は考慮されない。サブ・ファンドは、ESGリスクが高いかまたは重大なサステナビリティ・プロファイルを有する企業を除外する。ただし、ベンチマークの組入比率に関してポートフォリオ・リスクを管理するために当該企業に低い組入比率が求められるような特段の理由がある場合を除く。除外方針のほかに、本サブ・ファンドは、タバコの生産、風俗、石炭または石炭火力発電所由来のエネルギーにより主な収益を得る企業への直接的な投資を行わない。

サブ・ファンドは、パフォーマンスおよびESGプロファイルの監視、ならびにESGおよび投資リスク管理およびポートフォリオ構築の目的において、ベンチマークであるMSCI エマージング・マーケット(正味配当金再投資)を用いる。ベンチマークは、ESG特性を促進させるよう策定されたものではない。投資戦略および監視プロセスは、商品の環境的または社会的特性が確実に考慮されるようにする。ポートフォリオ・マネジャーは、ポートフォリオを構築する際に、自らの裁量権を行使することができ、投資選択または組入比率の点においてベンチマークに縛られない。つまり、サブ・ファンドの投資パフォーマンスは、ベンチマークから乖離することがある。サブ・ファンドは、そのグローバル志向のために複数の通貨に投資を行うが、投資ポートフォリオのすべてまたはその一部は、通貨変動リスクを負う場合がある。

本サブ・ファンドは、地域的な投資特性のために様々な外国通貨に投資を行うが、関連する為替リスクを低減するために、ポートフォリオのすべてまたはその一部を本サブ・ファンドの基準通貨に対してヘッジする場合がある。

投資家は、本サブ・ファンドの投資リスクには上海-香港ストック・コネクトまたは深圳-香港ストック・コネクトを通じて取引される中国A株も含む可能性があることに留意するべきである。中国A株は、中国本土にある企業の人民元建てA株式である。当該株式は、上海証券取引所および深圳証券取引所等の中国証券取引所において取引される。

本サブ・ファンドは、先進国市場および新興国市場の双方に投資する可能性がある。かかる投資に伴うリスクについては、「リスクの注記」に記載する。上記に加え、投資家は、上海-香港ストック・コネクトまたは深圳-香港ストック・コネクトを通じて取引される投資に伴う上記のリスクを読み、認識し、かつ、これを考慮するべきである。かかるリスクに関する情報は、下記「リスクの注記」に記載される。こうした理由により、本サブ・ファンドは上記のリスクを認識している投資家に特に適している。

基準通貨は、米ドルである。

典型的な投資家の特性

アクティブ運用されるサブ・ファンドは、新興国市場にあるまたは同地域で主に活動を行う企業に分散された株式ポートフォリオおよび環境および/または社会問題を推進するサブ・ファンドに投資することを望む投資家に適している。投資家は、株式に固有のリスクを負う覚悟を持つべきである。

UBS (Lux) エクイティ・ファンド - ヨーロピアン・オポチュニティ・サステナブル(ユーロ)

UBS アセット・マネジメントは、本サブ・ファンドをサステナビリティ・フォーカス・ファンドに分類している。

アクティブに運用されるUBS (Lux) エクイティ・ファンド - ヨーロピアン・オポチュニティ・サステナブル(ユーロ)は、その資産の大部分をヨーロッパにあるまたは同地域で主に活動を行う企業の株式およびその他の持分に投資する。当該投資の範囲で、本サブ・ファンドは(その純資産の10%を上限にオープン・エンド型投資信託である)ヨーロピアン・スモールおよび/またはミッド・キャップに直接的もしくは間接的に投資を行うこともできる。投資制限の「5 証券および短期金融商品を裏付け資産とする特別の技法および手段」に従い、サブ・ファンドはインデックス先物を利用して市場へのエクスポージャーを増減させることができる。

ポートフォリオ・マネジャーは、強力な環境・社会パフォーマンスの特性または強力なサステナビリティ・プロファイルを有する投資ユニバースについて企業を特定するためにUBS ESGコンセンサススコアを用いる。UBS ESGコンセンサススコアは、内部および認められた外部プロバイダーからのESGスコアデータの標準加重平均である。プロバイダー1社からのESGスコアデータに依拠する場合よりも、コンセンサススコアのアプローチは、サステナビリティ・プロファイルの質の妥当性を向上させる。

UBS ESGコンセンサススコアは、環境、社会およびガバナンス(ESG)に関して、関連する企業のパフォーマンス等の持続可能性要因を評価する。かかるESG特性は、企業の主要分野分野およびESGリスク管理の有効性に関連する。環境および社会要因には、とりわけ、環境フットプリントおよび経営効率、環境リスク管理、気候変動、天然資源の使用、汚染・廃棄物管理、労働基準やサプライチェーンの監理、人的資本、ボード・ダイバーシティ、労働安全衛生、製品安全性、ならびに贈収賄および汚職防止のガイドラインが含まれる可能性がある。

サブ・ファンドの各投資対象は、UBS ESGコンセンサススコア(1~10の基準で、10が最高のサステナビリティ・プロファイル)を有する。サブ・ファンドのサステナビリティ・プロファイルは、加重平均されたUBS ESGコンセンサススコアを用いて測定される。サブ・ファンドは、そのベンチマークのサステナビリティ・プロファイルを上回るか、またはUBS ESGコンセンサススコアの7から10(強力なサステナビリティ・プロファイルを示す。)を有するサステナビリティ・プロファイルを維持する。算定には現金および無格付投資商品は考慮されない。よって、サブ・ファンドは、環境的および社会的特性ならびにガバナンス特性を促進させる。

サブ・ファンドは、ESGリスクが高いかまたは重大なサステナビリティ・プロファイルを有する企業を除外する。また、除外方針のほかに、本サブ・ファンドは、タバコの生産、風俗、石炭または石炭火力発電所由来のエネルギーにより主な収益を得る企業への直接的な投資を行わない。

サブ・ファンドは、パフォーマンスおよびESGプロファイルの監視、ならびにESGおよび投資リスク管理およびポートフォリオ構築の目的において、ベンチマークであるMSCIヨーロッパ(正味配当金再投資)を用いる。ベンチマークは、ESG特性を促進させるよう策定されたものではない。投資戦略および監視プロセスは、商品の環境的または社会的特性が確実に考慮されるようにする。ポートフォリオ・マネジャーは、ポートフォリオを構築する際に、自らの裁量権を行使することができ、投資選択または組入比率の点においてベンチマークに縛られない。つまり、サブ・ファンドの投資パフォーマンスは、ベンチマークから乖離することがある。サブ・ファンドは、そのグローバル志向のために複数の通貨に投資を行うが、投資ポートフォリオのすべてまたはその一部は、通貨変動リスクを負う場合がある。

基準通貨は、ユーロである。

典型的な投資家の特性

サブ・ファンドは、ヨーロッパの企業のアクティブに運用される株式ポートフォリオおよび環境および/または社会問題を推進するサブ・ファンドに投資することを望む投資家に適している。投資家は、株式に固有のリスクを負う覚悟を持つべきである。

UBS (Lux) エクイティ・ファンド - グレーター・チャイナ (米ドル)

UBSアセット・マネジメントは、本サブ・ファンドを、特別なESG特性を推進せず、サステナビリティまたはインパクトにおける具体的な目標を持っていないESG統合型ファンドに分類している。

(中略)

UBS (Lux) エクイティ・ファンド - スモール・キャップスUSA (米ドル)

UBSアセット・マネジメントは、本サブ・ファンドを、特別なESG特性を推進せず、サステナビリティまたはインパクトにおける具体的な目標を持っていないESG統合型ファンドに分類している。

(中略)

UBS (Lux) エクイティ・ファンド - USサステナブル (米ドル)

UBSアセット・マネジメントは、本サブ・ファンドをサステナビリティ・フォーカス・ファンドに分類している。

UBS (Lux) エクイティ・ファンド - USサステナブル (米ドル) は、その資産の3分の2を、米国に所在するかまたは主として米国で事業を展開するあらゆる規模の会社の株式および持分権に投資する。

ポートフォリオ・マネジャーは、強力な環境・社会パフォーマンスの特性または強力なサステナビリティ・プロファイルを有する投資ユニバースについて企業を特定するためにUBS ESGコンセンサススコアを用いる。UBS ESGコンセンサススコアは、内部および認められた外部プロバイダーからのESGスコアデータの標準加重平均である。プロバイダー1社からのESGスコアデータに依拠する場合よりも、コンセンサススコアのアプローチは、サステナビリティ・プロファイルの質の妥当性を向上させる。

UBS ESGコンセンサススコアは、環境、社会およびガバナンス(ESG)に関して、関連する企業のパフォーマンス等の持続可能性要因を評価する。かかるESG特性は、企業の主要分野分野およびESGリスク管理の有効性に関連する。環境および社会要因には、とりわけ、環境フットプリントおよび経営効率、環境リスク管理、気候変動、天然資源の使用、汚染・廃棄物管理、労働基準やサプライチェーンの監理、人的資本、ボード・ダイバーシティ、労働安全衛生、製品安全性、ならびに贈収賄および汚職防止のガイドラインが含まれる可能性がある。

サブ・ファンドの各投資対象は、UBS ESGコンセンサススコア(1~10の基準で、10が最高のサステナビリティ・プロファイル)を有する。サブ・ファンドの投資対象は、そのベンチマークのサステナビリティ・プロファイルを超える加重平均されたサステナビリティ・プロファイルを有する。算定には、米国預託証券(ADR)および海外株式預託証書(GDR)(場合に応じる。)を考慮するにもかかわらず、現金、デリバティブおよび無格付投資商品は考慮されない。これは、ESGに対するコミットメントを高め、環境、社会およびガバナンスの側面に関してサブ・ファンドのプラスの特性を促進する効果がある。サブ・ファンドは、ESGリスクが高いかまたは重大なサステナビリティ・プロファイルを有する企業を除外する。また、除外方針のほかに、本サブ・ファンドは、タバコの生産、風俗、兵器、賭博、石炭または石炭火力発電所由来のエネルギーにより主な収益を得る企業への直接的な投資を行わない。

サブ・ファンドは、パフォーマンスおよびESGプロファイルの監視、ならびにESGおよび投資リスク管理およびポートフォリオ構築の目的において、ベンチマークであるS&P 500(正味配当金再投資)を用いる。ベンチマークは、ESG特性を促進させるよう策定されたものではない。投資戦略および監

視プロセスは、商品の環境的または社会的特性が確実に考慮されるようにする。ポートフォリオ・マネジャーは、ポートフォリオを構築する際に、自らの裁量権を行使することができ、投資選択または組入比率の点においてベンチマークに縛られない。つまり、サブ・ファンドの投資パフォーマンスは、ベンチマークから乖離することがある。サブ・ファンドは、そのグローバル志向のために複数の通貨に投資を行うが、投資ポートフォリオのすべてまたはその一部は、通貨変動リスクを負う場合がある。

基準通貨は、米ドルである。

典型的な投資家の特性

アクティブ運用されるサブ・ファンドは、米国企業に分散された株式ポートフォリオおよび環境および/または社会問題を推進するサブ・ファンドに投資することを希望し、かつ、株式に固有のリスクを負う覚悟がある投資家に適している。

リスクの注記

(中略)

流動性リスク

サブ・ファンドは、流動性の低下により売却することが困難であることが後に判明する証券に投資することがある。これは当該証券の市場価格に、そして結果として当該サブ・ファンドの純資産価額に悪影響を及ぼす可能性がある。当該証券の流動性の低下は、発行体の信用格付の格下げまたは効率的市場の欠如などの異例または異常な経済または市場の事由によって生じることがある。極端な市況においては、自発的な買主がほとんどいないことがあり、希望した時期および価格で投資対象を売却することが容易ではないことがある。また、当該サブ・ファンドは、投資対象を売却するためにより低い価格に同意しなければならないことがあり、または投資対象を売却することがまったくできないことがある。一定の証券またはその他の商品の取引は、関連する取引所または政府機関もしくは監督機関により停止されまたは制限されることがあり、これにより当該サブ・ファンドは損失を被る可能性がある。ポートフォリオのポジションを売却できないことは、当該サブ・ファンドの価値に悪影響を及ぼすかまたは当該サブ・ファンドのその他の投資機会の利用を妨げる可能性がある。買戻請求に応じるため、当該サブ・ファンドは、不利な時期にかつ/または不利な条件で、投資対象の売却を強いられることがある。

ESGリスク

「サステナビリティ・リスク」とは、発生した場合、実際にまたは潜在的に投資価値に重大な悪影響をもたらすおそれのある環境、社会またはガバナンスに関する事由または状況をいう。投資に伴うサステナビリティ・リスクが現実のものとなった場合には、投資価値の減少につながるおそれがある。

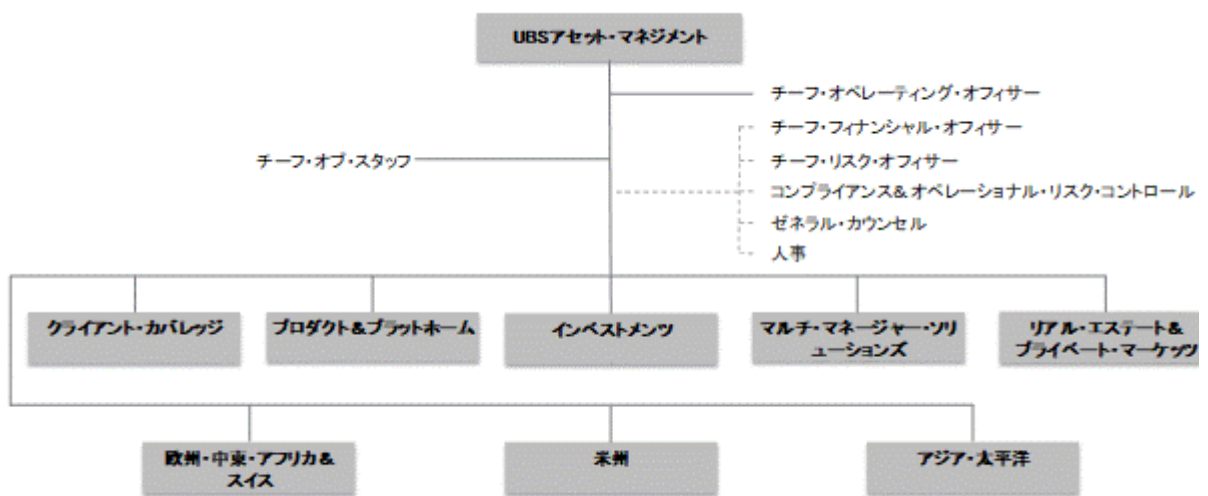
債券

(後略)

（3）運用体制

<訂正前>

（ ）投資運用体制



2020年4月6日現在

2020年3月末現在、UBSアセット・マネジメントは世界各地に860名を超える運用のプロフェッショナルを配している。

（ ）投資運用方針の決定プロセス

（中略）

- ファンダメンタルなリサーチ 従来のソースや慣例にとられないソースからの質の高いリサーチを提供するため、通常当該業務に要求される質以上のことに踏み込むことを目的とする。また、投資運用会社は、経験からの実践的な洞察に重きを置き、担当する業界出身のアナリストを多数雇用している。こうした深く掘り下げたリサーチにより多くの投資機会が掘り起こされ、顧客に対し真の価値を付加している。
- 業界リサーチ 投資運用会社の投資専門家らは、金融サービス業界に多くのリサーチ結果を寄稿している。投資運用会社の一連の白書は、理論上の投資概念の実践への適用に重きを置く一方、投資運用における最良の執行を推奨している。こうした白書は、世界中の主要な業界の刊行物や学術誌に掲載されている。

投資運用会社のリサーチは投資アプローチと連携しており、グローバルに統合された運用体制を支えている。

投資決定プロセス

（a）エマージング・マーケット・サステナブル・リーダーズ（米ドル）

- 1) ポートフォリオの構築はエマージング・マーケットおよびアジア・パシフィック株式担当の責任者と2名のシニア・ポートフォリオ・マネジャー（共同ポートフォリオ・マネジャーであり、1名はアジア・パシフィック株式担当、もう1名はそれ以外の担当とする。）が責任を負う。このグループはアナリストと連携しながら、企業を訪問し、株式ポートフォリオの銘柄、業種および国別に関するすべての決定を下す。

チューリッヒに所在するシニア・ポートフォリオ・マネジャーはラテン・アメリカ株式と中部・東部ヨーロッパ株式の各ポートフォリオを構築する。一方、アジアに所在するシニア・ポートフォリオ・マネジャーはアジア株式（除く日本）のポートフォリオを構築する。

アジアとチューリッヒに拠点を置くエマージング・マーケット担当のポートフォリオ・マネジャーは隔週でミーティングを行う。これに対して、アジア株式の担当チーム(アナリストとポートフォリオ・マネジャー)は毎週チーム・ミーティングを行い、アジア株式のポートフォリオに適用する調査と銘柄選択の考え方を討議する。またポートフォリオ・マネジャーは顧客のポートフォリオに関する問題点と取引について協議するために毎週ミーティングを行う。銘柄の選択に関して、このチームは、長期的な評価に重点を置きつつ、産業構造および競争上の地位、利益の持続可能性ならびにESGの観点から、被投資会社の質を考慮する。

2) リスク管理

個々の銘柄、国およびセクターは、POP(ポートフォリオ最適化のための社内ツール)、BarraおよびUBS独自のリスク・システムであるグローバル株式リスク管理システムなどのシステムの助けを借りて、ポートフォリオ・マネジャーによって投資の制限幅がモニターされている。さらに、Sentinelというツールが、すべてのサブ・ファンドの投資ガイドラインを日々監視している(取引前/後の監視を含む)。

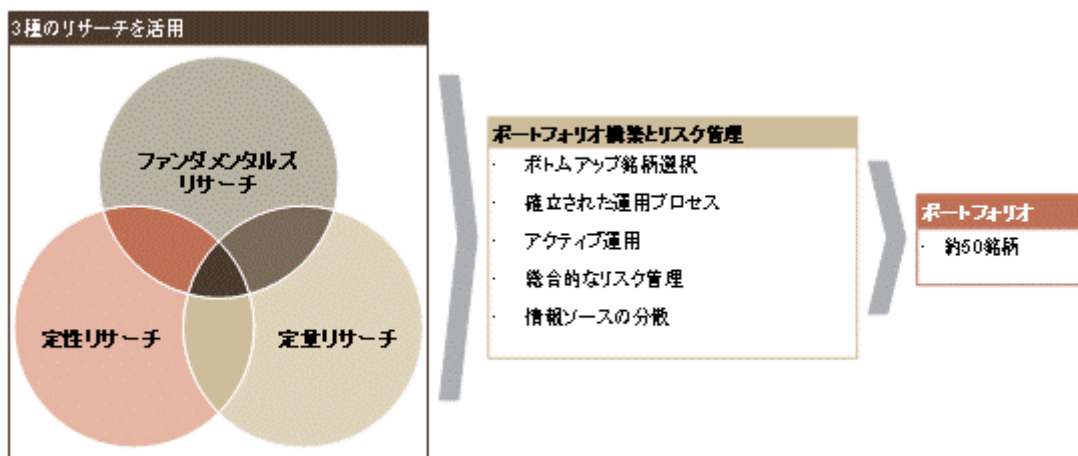
(b) ヨーロピアン・オポチュニティ・サステナブル(ユーロ)

集中アルファ・ユニットは、集中アルファ・ヨーロッパ株式のポートフォリオに関する、すべての株式、産業および国の決定に責任を負う。

集中アルファ・ユニットは、予測できない現在の投資環境の中で高いリターンの可能性のある戦略を提供するUBSアセット・マネジメント内の「専門」チームである。集中アルファ・ユニットは、UBSアセット・マネジメント・チームのコアとなる情報資源の全て(会社のリサーチ、リスク分析、コンプライアンス、取引、コーポレート・ガバナンス等)を活用するものの、別個の投資プロセスおよび別個の決定プロセスを備えている。

集中アルファ・チームは、その投資目的を、市場の非効率性を利用することで達成しようとする。各ポートフォリオは、内部および外部のリサーチ結果を利用することで主にボトムアップ的に構築される。これらの相互に独立した情報ソースの組み合わせは、ポートフォリオ・マネジャーが管理可能である枠組みにおいて、市場における変則的事象(アノマリー)および市場機会の全体像をポートフォリオ・マネジャーに提供する。それにより、ポートフォリオ・マネジャーは、予想されるポートフォリオのダウンサイド・リスクを抑えながら、バランスの取れた投資決定を行うことができる。

投資プロセスの概要



ポートフォリオ・マネジャーは、各銘柄の（相対的な）投資魅力の組合せおよびそのESGプロフィール（社内および外部の評価を統合したもの）に基づいて、ポートフォリオに組入れる銘柄およびその投資比率を決定する。この決定にあたっては、ポートフォリオ・マネジャーは、3つの相互に専門的な情報源から得られる投資哲学を、投資の確信を得るために利用するだけでなく、銘柄の想定される株価の上下のブレ（リスク対リターン）を把握するために利用する。

投資運用会社は、各保有銘柄を定期的に見直す。投資運用会社は、投資運用会社が依拠する独立した情報源からの裏付けが減ってきた場合、投資割合を減らすか、または保有銘柄を売却することがある。あるいは、投資運用会社は、類似の特徴を持つ他の投資対象が保有銘柄より（相対的に）魅力的となった場合には、保有銘柄を売ることができる。サブ・ファンドは、アクティブに運用され、主に柔軟な市場エクスポージャーを有する大中型株を利用する。

（c）グレーター・チャイナ（米ドル）

1）ポートフォリオの構築はグローバル・エマージング・マーケットおよびアジア・パシフィック株式担当の責任者とシニア・ポートフォリオ・マネジャーが責任を負う。このグループはアナリストと連携しながら、企業を訪問し、株式ポートフォリオの銘柄、業種および国別に関するすべての決定を下す。

アジアとチューリッヒに拠点を置くエマージング・マーケット担当のポートフォリオ・マネジャーは隔週でミーティングを行う。これに対して、アジア株式の担当チーム（アナリストとポートフォリオ・マネジャー）は毎週チーム・ミーティングを行い、アジア株式のポートフォリオに適用する調査と銘柄選択の考え方を討議する。またポートフォリオ・マネジャーは顧客のポートフォリオに関する問題点と取引について協議するために毎週ミーティングを行う。

2）リスク管理

個々の銘柄、国およびセクターは、SUMMIT（ポートフォリオ・ポジションのデータ・ハブ）やUBS独自のリスク・システムであるグローバル株式リスク管理システムなどのシステムの助けを借りて、ポートフォリオ・マネジャーによって投資の制限幅がモニターされている。さらに、Lux SPICE（コンプライアンス）チームが、すべてのサブ・ファンドのキャッシュ、株式への投資を日々監視している。

（d）スモール・キャップスUSA（米ドル）

投資運用会社の考え方は、（1）急速に成長する利益を生み出す強固な事業基盤を有する企業への投資による優れた長期リターンの獲得と（2）分散および合理的な評価への配慮を通じたリスク

管理を基本としている。USスモール・キャップ・グロス(米国小型成長株)戦略では、洗練されたクオンツ戦略と厳格なファンダメンタル・リサーチを組み合わせ、顧客にとって魅力的なリスク・リターン・プロフィールを設定する。投資運用会社独自のバックテストと投資運用会社による学問的文献の調査は、投資の対象となり、規律ある行動をする投資家が収益獲得に利用することのできる多数の変則的事象(アノマリー)が小型株の領域に存在することを示唆している。特に、投資運用会社の研究は、業績予想の上方修正、株主資本の効率的な利用および小型成長株ユニバースにおける相対的に強い株価トレンドが説明力を持つことを立証している。このような特性を示す銘柄は時間の経過とともに市場平均をアウトパフォームする傾向がある一方、このような特性を欠く銘柄は繰り返し市場平均をアンダーパフォームする傾向がある。

数量的評価モデル(クオンツ評価モデル)を用いて、スモール・キャップの銘柄を次の成長性要素およびモメンタム要素に基づき評価する。

- ・収益の上方修正
- ・株主資本の効率的な利用
- ・株価モメンタム
- ・セクターの差異を調整した相対的バリュエーション

結果は5つに分けられ、最上位の5分の1の銘柄がリサーチ・フォーカス・リストに入る銘柄となる。下位2つの銘柄は、売却検討リストに入れられる。

数量的評価(クオンツ評価)によるリサーチ・フォーカス・リストが作成した後、小型成長株チームはこれらの銘柄についてのファンダメンタル・リサーチを行う。適宜、UBSアセットマネジメントのグローバル・リサーチ・プラットフォームの見解も考慮する。

企業のデューデリジェンスおよびファンダメンタル・リサーチにおいて、小型成長株チームは、企業を、同業他社や過去の評価幅と比較する。しかし、一般的に、大部分の時間を企業のファンダメンタルな成長予測の分析に費やす。なぜなら小型成長株の投資ユニバースにおいて、長期的な企業の成長傾向は、現時点の評価よりもはるかに有力な株価変動の指標となると信じているからである。

さらに、小型成長株チームは、企業経営陣と直接的に接触することが、調査の重要な部分であると認識している。

リサーチのプロセス

小型成長株のリサーチは、主として、毎週の購入フォーカスリストにおいてクオンツ分析から魅力的であると識別された銘柄を対象とする。これらの銘柄は、毎週、小型成長株ポートフォリオ・マネジャーならびに小型成長株アナリストにより検討される。各チームメンバーは、ジェネラリストとして仕事を行い、リスト上の各銘柄のファンダメンタルズ、財務およびバリュエーションに関するデータを検討する。この作業は通常、評価の高いポートフォリオ分析ワークステーションであるBaseLine上で行われる。次に、ポートフォリオ・マネジャーとアナリストは、投資運用会社のオンサイト・リサーチ・ファイルであるファースト・コールから関係するウォールストリート・リサーチを調べ、また、投資運用会社と業務関係のある他の小規模な地域会社によるリサーチを読むことにより、魅力的な投資候補について検討する。この簡略的な調査によりリスト上の多数の会社が除外される。残った銘柄に対するデュー・デリジェンスとファンダメンタル・リサーチにおいて、小型成長株チームは、各銘柄を同業他社および当該銘柄の過去のバリュエーション・レンジと対比する。しかし、通常、投資運用会社は大半の時間を当該会社の成長見通しの分析に割く。なぜならば、長期でみた各会社の成長トレンドは、(少なくとも小型成長株ユニバース内では)各会社の現時点のバリュエーションよりも株価の値動きの予測に遙かに有用であるからである。さらに、多くのファンダメンタルな定性的ファクターは、投資運用会社のリサーチプロセスの重要な焦点である。

ポートフォリオ構築

小型成長株ポートフォリオ・マネジャーが主要な意思決定者であり、彼らは小型成長株アナリストがサポートしている。各チームメンバーは、ジェネラリストとして、フォーカスリスト上の各会社のファンダメンタル、財務およびバリュエーションに関するデータを検討する。ポートフォリオ・マネジャーとアナリストが魅力的な投資案を見出した場合、彼らは各銘柄をポートフォリオに加える運用上の根拠について議論する。投資案は厳しい吟味と批判的な検討を受け、多くの案は議論の段階で棚上げされる。ポートフォリオに会社を追加する際、ポートフォリオ・マネジャーは、第一に、ボトムアップ的な視点から検討を行い、当該個別銘柄の投資メリットに焦点を合わせる。しかし、リサーチのために銘柄を選択する際には、投資運用会社はポートフォリオの分散ニーズにも注意を向ける。

リスク管理

リスク管理は、ポートフォリオ構築プロセスに不可欠な要素である。ポートフォリオ・マネジャーは2つのモデルを利用することができる。一つは業界の標準的なBARRAモデルであり、もう一つは社内で開発されたグローバル株式リスク管理システムと呼ばれるモデルである。どちらのモデルも、個別のポジション、セクター、国、要因および通貨見通しにより発生するリスクに関する知見ならびに全体の予想トラッキング・エラーの推定値を提供する。投資運用会社は、リスクモデルを用いてポートフォリオを最適化するのではなく、むしろ、アクティブなウェイトिंगがポートフォリオ・リスクに及ぼす影響の把握に努める。このようなリスクレポートに基づき、投資運用会社は、2つの主要な方法でポートフォリオ・リスクを管理する。まず、投資運用会社は、セクター配分をベンチマーク比で制限することによりリスクを管理する。各セクターに関しては、ベンチマークの比率の最大3倍、指数の組入比率に対して最大15%の範囲でオーバーウェイトまたはアンダーウェイトを行うことができる。第二に、チームは、多数の銘柄(通常80~100銘柄)を保有することにより、単一の銘柄がポートフォリオの運用成績に及ぼす影響を低減し、アクティブ運用のリスクを抑制するように努める。

(e) USサステナブル(米ドル)

サブ・ファンドの投資哲学および投資プロセスは、ボトムアップのファンダメンタル・リサーチと綿密なサステナビリティ分析を組み合わせたものである。割安感があり、かつ省エネや節水、ヘルスケア、人口動態および長期的なトレンド等の継続的なテーマから利益を享受することができる企業を積極的に選択する。「サステナビリティ」は、各企業が長期的な採算性および収益性の達成を目指す中でほぼ間違いなく最大の勘案事項である。株主が投資しているものは、当該企業の財務諸表に記載されている内容よりもはるかに多くのものが含まれている。つまりその経営体制、所有建物、従業員、企業文化、規制環境、ガバナンスおよびブランド価値を含んだ企業価値の全体像を俯瞰して投資の意思決定を行う。

UBS独自のサステナビリティ・データベースを管理し、独自のスコアリング手法を採用している。各業種のビジネスモデルに適合したKPI(重要業績評価指標)を設定し、各KPIの重要性に基づいてウェイト付けを行う。このように独自にデータ収集することにより、外部のESG格付業者よりも、企業のサステナビリティへの取り組みについて、より適時かつ正確に把握することができると考えている。

ポートフォリオ構築プロセスは、ポートフォリオ構築チームおよび複数のアナリストによる一連の総合的な意思決定から構成されている。ポートフォリオ・マネジメント・チームは、ポートフォリオのポジショニングを議論する目的の会議を週次にて開催し、変更候補の検証を行う。さらに、ポートフォリオ・マネジメント・チームは、投資モデルに対するアップデートおよび直近の調査出張の成果等について意見交換をするために、複数のアナリストを交えたグループ・ミーティングを行っている。この他、具体的なトレードに関するアイデアを検討するために個別のミーティングを毎週行っている。この個別のミーティングでは通常、各ポートフォリオ・マネジャーとアナリストとの間で投資テーマ、評価モデルおよびカタリストについての全面的な検証を含む徹底的な話し合いが行われる。各アナリストが自身でリサーチを行い各々の対象地域分野における投資機会を特定する中で、チーム内では定例会議外での議論も頻繁に交わされている。

サブ・ファンドのポートフォリオ構築手法は、独自の「ポートフォリオ・オプティマイゼーション・プラットフォーム」により強化されている。これは、アルファ、リスクおよび取引コストを単一のプラットフォームに統合した双方向の意思決定支援ツールであり、ポートフォリオ構築チームはこれにより、シナリオ分析を行い、トレード候補のポジションがポートフォリオのリスク特性に与える影響をリアルタイムで評価することが可能となる。

() 会合、委員会またはその他の社内組織

リスク管理/リスク統制

グローバル・インベストメント・ソリューションズ・チームの一部であるリスク管理グループは、ポートフォリオ・マネジャーがリスクを調整した最大のリターンを上げるのを補助することを主な目的としている。

リスク・モデルおよびリスク・システムは、投資プロセスの周辺で形成される。投資運用会社用に設計されるリスク管理ツールは、「レディーメイド」のリスク管理プロダクトへの依存から踏み出す助けとなっている。投資運用会社は、すべての資産クラスの投資決定プロセスと連携する最先端の独自モデルを開発するために多くの資源を注いできた。

投資運用会社のリスク管理システムは、株式、債券および資産分散型ポートフォリオをカバーしている。毎営業日の終了時にファンドの会計システムからポジションがダウンロードされ夜のうちに処理が行われる。その結果は、イントラ・ネットにてポートフォリオ・マネジャーに配布される。このように、ポートフォリオ・マネジャーは、正確かつ最新のリスク情報を入手することができる。

グローバル株式リスク管理システムは、UBS独自の株式のリスク・モデルを提供している。これらは、リスクの長期的および短期的な展望を提供する。リスク・モデル要因は、業種別、国別および規模別に分類され、投資プロセスとの対応がはかられる。また、グローバル株式リスク管理システム内にBarraリスク・モデルを設けて、リスクの選択的および補足的な視点も提供している。

リスク管理は、責任や名声に関する損害を回避するためにも、資産運用業務にとっては特に重要な要素となる。最高水準のリスクの特定、リスク管理およびリスク統制は、運用グループの成功、評判および継続的な強さにとって不可欠であり、経営陣とスタッフはあらゆるリスクに対し最善の市場慣行を開発し適用することに注力している。

UBSアセット・マネジメントのリスク管理は、職務の適切な分離を含む強固な内部統制の原則に基づいている。リスク管理・統制は、投資運用・リサーチ部門と共に業務分野全体で行われており、リスク担当最高責任者と緊密に連携しているグループ内のリスク管理部門により別途監視されている。

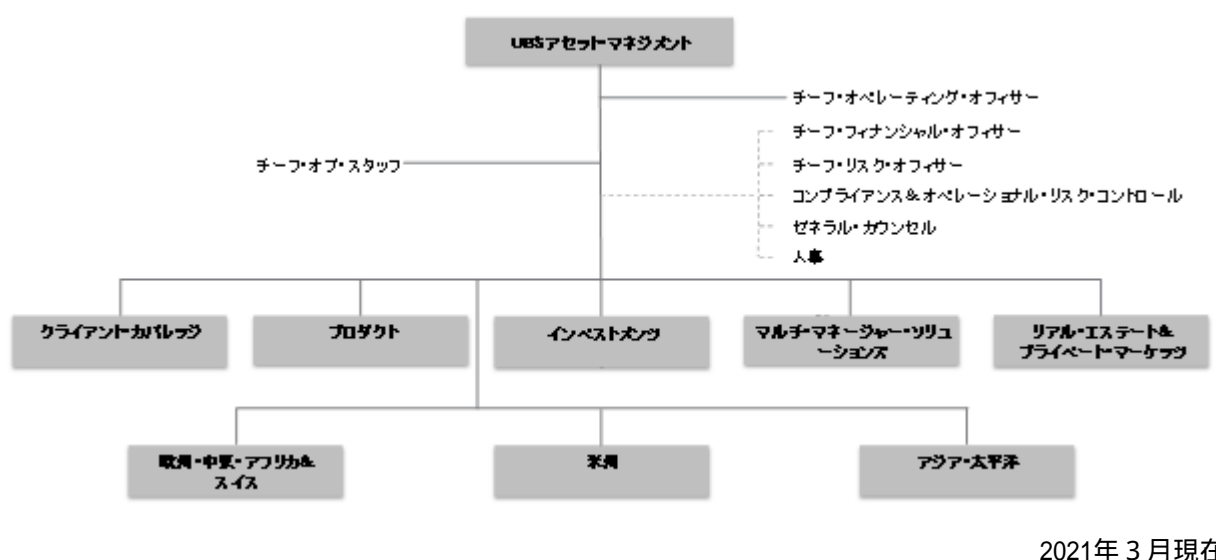
法務/コンプライアンス

法務/コンプライアンス・グループは、グローバル投資運用部門および顧客勘定管理部門と明確に分離されている。コンプライアンス・オフィサーと法務スタッフは、運用部門の規制上および業務上の手続きの検討を行う。さらに、顧客ガイドラインおよび契約遵守に関するポートフォリオのレビューを行う会議が定期的に設定されている。

(後略)

<訂正後>

() 投資運用体制



2020年12月末現在、UBSアセット・マネジメントは世界各地に約880名の運用プロフェッショナルを配している。

() 投資運用方針の決定プロセス

(中略)

- ファンダメンタルなリサーチ 従来のソースや慣例にとらわれないソースからの質の高いリサーチを提供するため、通常当該業務に要求される質以上のことに踏み込むことを目的とする。また、投資運用会社は、経験からの実践的な洞察に重きを置き、担当する業界出身のアナリストを多数雇用している。こうした深く掘り下げたりサーチにより、より多くの投資機会が掘り起こされ、顧客に対し真の価値を付加している。
- 業界リサーチ 投資運用会社の投資専門家らは、金融サービス業界にリサーチ結果に関する論文を数多く寄稿している。投資運用会社の一連の白書は、理論上の投資概念の実践への適用に重きを置く一方、投資運用における最良の執行を推奨している。こうした白書は、世界中の主要な業界の刊行物や学術誌に掲載されている。

投資運用会社のリサーチ努力は投資アプローチと結びついており、グローバルに統合された運用体制を支えている。

投資決定プロセス

(a) エマージング・マーケット・サステナブル・リーダーズ(米ドル)

- 1) ポートフォリオの構築はエマージング・マーケットおよびアジア・パシフィック株式担当の責任者と2名のシニア・ポートフォリオ・マネジャー(共同ポートフォリオ・マネジャーであり、1名はアジア・パシフィック株式担当、もう1名はそれ以外の担当とする。)が責任を負う。このグループはアナリストと連携しながら、企業を訪問し、株式ポートフォリオの銘柄、業種および国別に関するすべての決定に責任を負う。

チューリッヒに所在するシニア・ポートフォリオ・マネジャーはラテン・アメリカ株式と中部・東部ヨーロッパ株式の各ポートフォリオを構築する。一方、アジアに所在するシニア・ポートフォリオ・マネジャーはアジア株式(除く日本)のポートフォリオを構築する。

アジアとチューリッヒに拠点を置くエマージング・マーケット担当のポートフォリオ・マネジャーは隔週でミーティングを行う。これに対して、アジア株式の担当チーム(アナリスト

とポートフォリオ・マネジャー)は毎週チーム・ミーティングを行い、アジア株式のポートフォリオに適用するリサーチと銘柄選択の考え方を討議する。またポートフォリオ・マネジャーはポートフォリオに関する主な問題点と顧客の取引について協議するために毎週ミーティングを行う。銘柄選択に関して、このチームは、長期的な評価に重点を置きつつ、産業構造および競争上の地位、利益の持続可能性ならびにESG(社内および外部両方の評価を組み入れたもの)の観点から、被投資会社の質を考慮する。

2) リスク管理

個々の銘柄、国およびセクターへの投資について制限幅があり、ポートフォリオ・マネジャーは、POP(ポートフォリオ最適化のための社内ツール)、BarraおよびUBS独自のリスク・システムであるグローバル株式リスク管理システムなどの様々なシステムの助けを借りて、これらの制限幅を監視している。さらに、Sentinelというツールが、すべてのサブ・ファンドの投資ガイドラインを日々監視している(取引前後の監視を含む)。

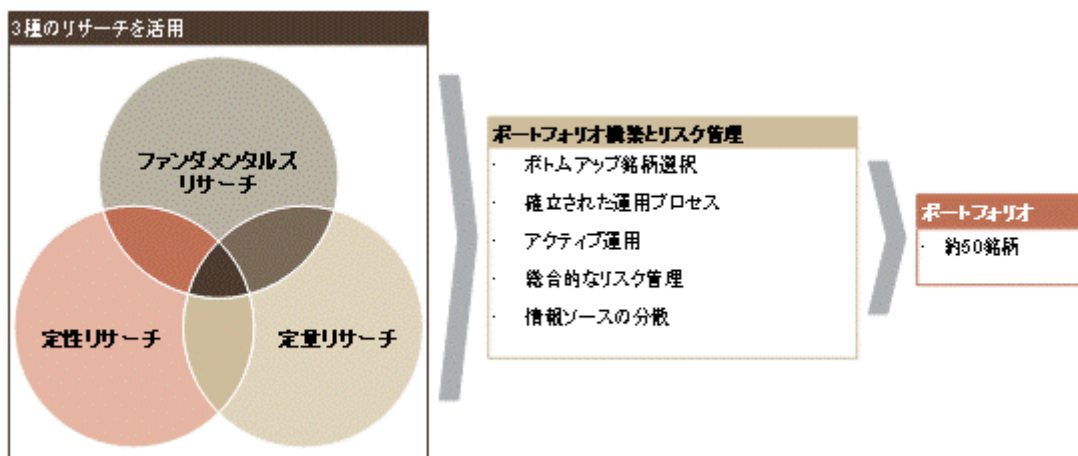
(b) ヨーロピアン・オポチュニティ・サステナブル(ユーロ)

集中アルファ・ポートフォリオ運用チームは、集中アルファ・ヨーロッパ株式のポートフォリオの銘柄、業種および国別に関するすべての決定に責任を負う。

集中アルファ・ユニットは、予測できない投資環境の中で高いリターンの可能性のある戦略を提供するUBSアセット・マネジメント内の「専門」チームである。集中アルファ・ユニットは、UBSアセット・マネジメント・チームのコアとなる情報資源(会社のリサーチ結果、リスク分析、コンプライアンス、取引、コーポレート・ガバナンス等)すべてを活用するものの、別個の投資プロセスおよび別個の投資決定プロセスを備えている。

集中アルファ・チームは、市場の非効率性を利用することでその投資目的の達成を目指す。各ポートフォリオは、内部および外部両方のリサーチ資源を利用することで主にボトムアップ的に構築される。これらの相互に独立した情報源の組み合わせは、管理可能である枠組みにおいて、市場における変則的事象(アノマリー)および市場機会の全体像をポートフォリオ・マネジャーに提供する。それにより、ポートフォリオ・マネジャーは、予想されるポートフォリオの値下がりにリスクを抑えながら、バランスの取れた投資決定を行うことができる。

投資プロセスの概要



ポートフォリオ・マネジャーは、各銘柄の投資魅力とそのESGプロフィール（社内および外部両方の評価を統合したもの）の組み合わせに基づいて、ポートフォリオに組み入れる銘柄およびその投資比率を決定する。この決定にあたっては、ポートフォリオ・マネジャーは、3つの相互に専門的な情報源を、投資の確信を得るために利用するだけでなく、銘柄の予想される株価の上下のブレ（リスク対リターン）を把握するために利用する。

投資運用会社の投資プロセスは、以下に要約される「三円」アプローチに依拠する。

- ・シナリオ分析ツールおよび内部/外部のアナリストを利用したファンダメンタル分析
- ・外部を情報源とするカスタム・メイドの定量的モデル5種で、比較的相関性がなく、かつ、異なる時間枠、複雑性および回転率に基づくもの
- ・内部チームのESG専門家から提供された各社のESGプロフィールおよびコーポレート・ガバナンス情報全般、ならびに外部のESG情報提供機関から提供されたデータおよびリサーチ結果を含む定性情報

投資運用会社は、「三円」アプローチにおいて魅力的に見える銘柄を購入する。通常、投資運用会社が選好する銘柄は、値下がりリスクに対して比較的良好な値上がりの可能性を有し、投資運用会社の情報源が示す魅力的な定量的および定性的な特徴を有する。

リスク管理は、投資運用会社のアプローチに対して基本的な重要性を有する。投資運用会社にとって最も重要なリスク要素は、顧客の投資元本の全部または一部喪失の可能性である。投資運用会社は、ボトム・アップでポートフォリオを構築しているため、銘柄レベルでこのリスクを最優先で取り扱う。リスク・システムにより、意図していなかった巨大なファクター・リスクが発生したかを把握することができる。このようなリスクが発生した場合には是正措置を講じる。

規律の一環として、すべての銘柄は、各保有に関する投資ケースの進展を監視するために、この「三円」アプローチを用いて6ヶ月から8ヶ月毎に正式に検討される。

投資運用会社は、各銘柄の保有理由を定期的に見直す。投資運用会社は、独立した情報源からの裏付けが減ってきた場合、投資比率を減らすか、または保有銘柄を売却することがある。あるいは、投資運用会社は、類似の特徴を持つ他の投資対象が保有銘柄より魅力的となった場合には、当該保有銘柄を売却することがある。サブ・ファンドは、アクティブに運用され、主に、柔軟な市場エクスポージャーを有する大中型株を利用する。

(c) グレーター・チャイナ（米ドル）

- 1) ポートフォリオの構築はエマージング・マーケットおよびアジア・パシフィック株式担当の責任者とシニア・ポートフォリオ・マネジャーが責任を負う。このグループはアナリストと

連携しながら、企業を訪問し、株式ポートフォリオの銘柄、業種および国別に関するすべての決定に責任を負う。

アジアとチューリッヒに拠点を置くエマージング・マーケット担当のポートフォリオ・マネジャーは隔週でミーティングを行う。これに対して、アジア株式の担当チーム(アナリストとポートフォリオ・マネジャー)は毎週チーム・ミーティングを行い、アジア株式のポートフォリオに適用するリサーチと銘柄選択の考え方を討議する。またポートフォリオ・マネジャーはポートフォリオに関する主な問題点と顧客の取引について協議するために毎週ミーティングを行う。銘柄選択に関して、このチームは、長期的な評価に重点を置きつつ、産業構造および競争上の地位、利益の持続可能性ならびにESG(社内および外部両方の評価を組み入れたもの)の観点から、被投資会社の質を考慮する。

2) リスク管理

ポートフォリオ・マネジャーは、POP(ポートフォリオ最適化のための社内ツール)、BarraおよびUBS独自のリスク・システムであるグローバル株式リスク管理システムなどの様々なシステムの助けを借りて、ポートフォリオ・リスクを監視している。さらに、Sentinelというツールが、すべてのサブ・ファンドの投資ガイドラインを日々監視している(取引前後の監視を含む)。

(d) スモール・キャップスUSA(米ドル)

投資運用会社の投資哲学は、「急速に成長する売上および利益を生み出す強固な事業基盤および魅力的な競争上の地位を有する企業への投資により優れた長期リターンを獲得すること」を基本としている。

投資プロセスは、1) 投資案件の発掘、2) 投資テーマの策定、および3) ポートフォリオの構築の3部から構成される。

1) 投資案件の発掘

このパートは、綿密なりサーチに関して見込みのある投資案件を発掘するため、定量面と定性面の考察を組み合わせたものである。

定量的評価は以下を含む。

- ・会社経営陣との会合
- ・業界アナリストとの話合い
- ・サプライ・チェーンおよび競合他社の分析
- ・テーマ別影響およびマクロ経済に与える影響の検討

定性的スクリーニングは以下を対象とする。

- ・業績および株価モメンタム
- ・評価
- ・収益の質および収益動向
- ・資本の活用

2) 投資テーマの策定

銘柄の評価については、3段階の枠組みから構成される。

第一段階は「ビジネス・モデル評価」といい、ここでは、a) 競争上の地位、b) 商品のライフ・サイクル、c) 増益率の持続可能性を評価する。

第二段階は、a) キャッシュフロー、b) 利益率の拡大、c) 資産活用、およびd) 相対価値を対象とした「トレンドおよび評価分析」を行う。

第三段階は「経営陣の評価」といい、ここでは、a) 経営陣の率直さおよび質、b) 経営陣のインセンティブ報酬、c) 予想外の情報または意外性の要素の評価および見直しを行い、投資テーマを確認する。

3) ポートフォリオの構築

売買に関し厳格な規律あるポートフォリオ構築を行う。

購入 / 買増し / 保有

- ・ 堅固なビジネス・モデル
- ・ 強力かつ持続可能な成長トレンド
- ・ 基本的な確認
- ・ 魅力的な評価
- ・ 十分な取引流動性

売却 / 削減 / 見直し

- ・ 売上予想または利益予想の未達成
- ・ 過去のレンジに対する割高感
- ・ 近く予定されている二者択一事由
- ・ 時価総額の上昇
- ・ 取引流動性の低下
- ・ 主要な業界またはセクターへの懸念
- ・ ポートフォリオに関するより優れたアイデア

4) リスク管理

リスク管理は、ポートフォリオ構築プロセスに不可欠な要素である。ポートフォリオ・マネジャーは2つのリスクモデルを利用することができる。一つは業界の標準的なBARRAモデルであり、もう一つは社内で開発されたグローバル株式リスク管理システムと呼ばれるモデルである。どちらのモデルも、個別のポジション、セクター、国、要因および通貨見通しにより発生するリスクに関する知見ならびに全体の予想トラッキング・エラーの推定値を提供する。投資運用会社は、リスクモデルを用いてポートフォリオを最適化するのではなく、むしろ、アクティブなウェイトイングがポートフォリオ・リスクに及ぼす影響の把握に努める。

上記のリスクモデルに加えて、以下の3つの主要な方法でポートフォリオ・リスクを見直し、統制する。

- a) 銘柄の分散化（ポジション金額および保有銘柄の口数）
- b) セクターの分散化（指数の組入比率に対し最大±15%）
- c) 流動性（銘柄の月間取引額の40%未満を保有）

(e) USサステナブル（米ドル）

投資運用会社の投資哲学および投資プロセスは、ボトムアップのファンダメンタルなリサーチと綿密なサステナビリティ分析を組み合わせたものである。投資運用会社は、魅力的な評価とサステナビリティ面で高格付の両方を有する企業を積極的に探している。

UBS独自のサステナビリティ・データベースおよびスコアリング手法を継続してアップデートしている。各業種のビジネス・モデルに適合したKPI（重要業績評価指標）を設定し、業界セクターに対する各KPIの重要性に基づいてウェイト付けを行う。このように独自にデータ収集する

ことにより、企業のサステナビリティへの取り組みについて、より適時かつ正確に把握することができると考えている。

ポートフォリオ構築プロセスは、ポートフォリオ構築チームおよび複数のアナリストによる一連の総合的な意思決定から構成されている。ポートフォリオ・マネジメント・チームは、ポートフォリオのポジショニングの見直しおよび変更候補の検証を定期的に行う。さらに、ポートフォリオ・マネジメント・チームは、投資モデルに対するアップデートおよび直近の調査出張の成果等について意見交換をするために、複数のアナリストを交えたグループ・ミーティングを行っている。この他、具体的なトレードに関するアイデアを検討するために個別のミーティングを行っている。この個別のミーティングでは通常、ポートフォリオ・マネジャーとアナリストとの間で、前述した評価を得るために必要な投資テーマ、評価モデルおよびカタリストについての全面的な検証を含む徹底的な話し合いが行われる。各アナリストが自身でリサーチを行い各々の対象地域分野における投資機会を特定する中で、チーム内では定例会議外での議論も頻繁に交わされている。

投資運用会社のポートフォリオ構築手法は、独自の「ポートフォリオ・オプティマイゼーション・プラットフォーム」により強化されている。これは、アルファ、リスクおよび取引コストを単一のプラットフォームに統合した双方向の意思決定支援ツールであり、ポートフォリオ構築チームはこれにより、シナリオ分析を行い、トレード候補のポジションがポートフォリオのリスク特性に与える影響をリアルタイムで評価することが可能となる。

() 会合、委員会またはその他の社内組織

リスク管理/リスク統制

グローバル・インベストメント・ソリューションズ・チームの一部であるリスク管理グループは、ポートフォリオ・マネジャーが全社にわたりリスクを調整した最大のリターンを上げるのを補助することを主な目的としている。

リスク・モデルおよびリスク・システムはすべて、投資プロセスにわたり開発される。投資運用会社の目的のために設計されるリスク管理ツールの要件は、「レディーメイド」のリスク管理プロダクトへの依存から踏み出す助けとなっている。投資運用会社は、すべての資産クラスの投資決定プロセスと連携する最先端の独自モデルを開発するために多くの資源を注いできた。

投資運用会社の独自のリスク管理システムは、株式、債券および資産分散型ポートフォリオをカバーしている。毎営業日の終了時にファンドの会計システムからポジションがダウンロードされ夜のうちに処理が行われる。その結果は、イントラネットを通してポートフォリオ・マネジャーに配信される。このように、ポートフォリオ・マネジャーは、正確かつ最新のリスク情報を入手することができる。

グローバル株式リスク管理システムは、UBS独自の株式のリスク・モデルを提供している。これらは、リスクの長期的および短期的な展望を提供する。リスク・モデル要因は、業種別、国別および規模別に分類され、投資プロセスとの調和を図る。また、グローバル株式リスク管理システム内にBarrリスク・モデルを設けて、ポートフォリオ・マネジャーにリスクの選択的および補足的な視点も提供している。

リスク統制は、特に責任や評判に関する損害を回避するためにも、資産運用業務にとっては重要な要素となる。最高水準のリスクの特定、リスク管理およびリスク統制は、運用グループの成功、評判および継続的な強さにとって不可欠であり、経営陣とスタッフはあらゆるリスクの動きに対し最善の市場慣行を開発し適用することに注力している。

UBSアセット・マネジメントのリスク管理は、適切な職務分掌を含む強固な内部統制の原則に基づいている。リスク管理・統制は、投資運用・リサーチ部門と共に業務分野全体で行われており、グループ最高リスク管理責任者と緊密に連携している運用グループ内の権限を付与されたリスク統制部門により別途監視されている。

法務/コンプライアンス

法務/コンプライアンス・グループは、グローバル投資運用部門および顧客勘定管理部門と明確に分離されている。コンプライアンス・オフィサーと法務スタッフは、規制上および業務上の手続きの検討を行う。さらに、顧客ガイドラインおよび契約遵守に関するポートフォリオのレビューを行う会議が定期的に設定されている。

(後略)

第2 管理及び運営

4 その他

<訂正前>

(前略)

指数提供者

MSCI

(中略)

ベンチマーク規則

(中略)

ベンチマークに重大な変更が生じた場合またはベンチマークが停止された場合、管理会社は、ベンチマーク規則第28条(2)で要求されるとおり、かかる場合に取りべき措置を記した書面による計画(以下「危機管理計画」という。)を有している。受益者は、管理会社の登記上の事務所において危機管理計画について無料で相談することができる。

<訂正後>

(前略)

指数提供者

インデックスに使用される算定方法は、指数提供者により定められる。

MSCI

(中略)

ベンチマーク規則

(中略)

ベンチマークに重大な変更が生じた場合またはベンチマークが停止された場合、管理会社は、ベンチマーク規則第28条(2)で要求されるとおり、かかる場合に取りべき措置を記した書面による計画(以下「危機管理計画」という。)を有している。受益者は、管理会社の登記上の事務所において危機管理計画について無料で相談することができる。

サステナビリティ・プロファイルの測定(サステナビリティ・フォーカス・ファンド)

サステナビリティ・フォーカス・ファンドは、そのベンチマークのプロファイルに照らして測定されるサステナビリティ・プロファイルを有する。関連するUBSのESGコンセンサススコアは、年1回以上、関連する月次のプロファイルから計算され、年次報告書において公表される。